

実施内容報告書

課 題 名 地域文化の核を目指す「みんなの理科フェスティバル」の
連携拡大に向けた取り組み

交 付 番 号 19008

機 関・氏 名 横須賀市自然・人文博物館 内船 俊樹（うちふね としき）

（１）事業の目的

小中学生や大人が「理科」を通じたコミュニケーションを実現する場として、2017年から年一回開催している研究発表会「みんなの理科フェスティバル」において、

- ・教育委員会の学校教育セクションが所管する小中学生の理科活動（自由研究・理科工作・科学系部活動等）の成果物や地域の研究機関等による制作物の展示規模の拡大
- ・広報活動に力を入れるとともに、目玉の一つとなる関連事業（企画展示）を開催することで、市民を中心とした多くの注目および来場

を実現することにより、「みんなの理科フェスティバル」の連携（博学連携および博社連携）拡大を図り、次（2020）年度から自主財源（市費）での運営ができる体制を整え、地域文化の核となる事業として安定化させることを目指しました。

（２）事業の場所及び実施期間

実施場所 ① 横須賀市自然・人文博物館 本館（実施期間を通じた本事業の主な実施場所）
② 横須賀市文化会館 第一・二市民ギャラリー（研究発表会の実施場所）

実施期間 2019年6月～2020年2月（研究発表会は2019年12月14・15日の二日間）

（３）事業の具体的実施内容

0. 研究発表会「みんなの理科フェスティバル」について

「子どもから大人まで、みんなが『理科』でつながる」をキャッチフレーズに、地域の様々な人々が「理科（≡科学的探究活動）」でコミュニケーションがとれる場と機会を目指す事業です。従来、博物館の空きスペースで実施していた小中学生の自由研究や理科工作の展示会を、同じく博物館で開催していた市民による地域研究の展示発表会と組み合わせて開催するため、2017年度に日産財団理科教育助成を受け、同助成のもと2018年度まで2回（いずれも12月）を実施し、今回が第3回に当たります。毎回、開催期間中の特定の時間に、出展者が一堂に会して互いに発表を行う「みんなの発表会」を設け（図1）、来場者を含めて「理科」をテーマに異なる世代・立場の交流を

図っています。

1. 「みんなの理科フェスティバル」の開催規模の拡大

1-i) 研究発表会の会場は、これまで横須賀市文化会館の第一市民ギャラリー（380 m²）を借用していました（図 2, 3）。従来よりも多くの出展を受け入れるため、新たに同じフロアで会場同士の連結が可能な同第二市民ギャラリー（240 m²）も借用しました（図 2, 4）。なお、借用期間は開催日（2019 年 12 月 14・15 日）に準備日（同月 12・13 日）を加えた 4 日間とし、**ギャラリー借用代**として 148,100 円を支出しました〔(4) 借損料〕。

1-ii) 会場拡大にともない増加する出展に対応するため、発表ポスターの掲示板を増設しました。これは、会場の展示壁面にはテープ等粘着剤が使用できないことから、出展ポスター（A0 判相当）ごとにひと回り大きな掲示用板材をピクチャーレールから懸垂し、テープ等粘着剤によるポスター貼付を可能にしたものです（図 5）。この掲示用板材 20 枚に加え、ポスター等の会場案内に必要な**パネル制作資材**等の購入代金として 29,934 円（うち 220 円は振込手数料）を支出しました〔(5) 消耗品費〕。

1-iii) 研究発表会では「みんなの発表会」として、出展者が一堂に会して互いに発表を行う機会を設けています。これまで、多くの来場者が会場内で発表を視聴しやすくする工夫として、出展者による発表ポスターなどの資料を、プロジェクタによって拡大投影してきました（図 6）。一方で、この会場は展覧会としての使用が想定されているため、参加者からは音響面での不満が寄せられていました。そこで、同時に 2 本のマイクが使用できる高出力マイクスピーカーに、サブとなる小型マイクスピーカーをマイクコードで接続することによって会場内に音声を効果的に拡散させるシステム（図 7）を構築し、司会や出展者による発表の音声聞こえやすい環境を整えるため、**マイクスピーカー**の購入代金として 96,600 円を、**マイクコード類**の購入代金として 4,472 円を、それぞれ支出しました〔(5) 消耗品費〕。

1-iv) 開催規模の拡大にともなって、会場案内や展示作品監視など準備・運営補助・協力のスタッフ増員に対し、開催 2 日間でのべ 9 人分の**謝金** 58,620 円（うち 4,620 円は振込手数料）を支出しました〔(2) 謝金〕。

1-v) 小中学生や高校生に加え、大学生・院生や大学・研究機関教職員など、多様な出展者を共通の基準（人気投票）によって選出（図 8）・表彰することにより、研究発表会の格式を上げることを試みました。そのため、当日の投票用紙や受賞者へ後日送付した**賞状用紙**などの購入代金として 4,271 円を支出しました〔(5) 消耗品費〕。

2. 関連事業としての企画展示の開催

研究発表会「みんなの理科フェスティバル」への注目と来場者の増加を狙い、会場に近接した博物館本館における関連事業として、企画展示「神奈川県植物誌 2018 と三浦半島の植物たち」を、2019 年 12 月 7 日～2020 年 2 月 16 日の会期で開催しました（図 9）。展示に際しては、神奈川県立生命の星・地球博物館から同館 2018 年度特別展「植物誌をつくろう！～『神奈川県植

物誌 2018』のできるまでとこれから～」の展示の一部（巡回展示セット：植物模型 3 点ならびに解説パネル 10 点）を当博物館の車で輸送し、当博物館の収蔵資料とともに展示しました。この**展示セット輸送経費**として、博物館の車両のガソリン代および有料道路代 **2,304 円**を支出しました〔(3) **旅費**〕。なお、当博物館のフィールドである三浦半島の植生についての展示解説パネルは、『神奈川県植物誌 2018』にも関わった本事業補助者の山本学芸員によって執筆し、自主制作しました（一部資材は前出 1-ii の消耗品費での購入品を含みます）。

3. 広報用印刷物の制作

研究発表会「みんなの理科フェスティバル」について、事業への注目と来場者の増加を狙うとともに、前項の企画展示との相乗効果を高めるため、広報用の**チラシ 2 種**（計 10,000 枚）と**ポスター 3 種**（計 600 枚）の**委託制作料**（デザイン料を含む）として **105,700 円**を支出しました〔(8) **印刷製本費**〕（図 10, 11）。内容は、本体事業である「みんなの理科フェスティバル」と関連事業の企画展示に分け、チラシは両面印刷、ポスターはチラシの表面と共通デザインとしました。市の各種施設・機関や小中学校などへの配布・配架を依頼することで、より効果的なポスター配布を行いました。

（4）事業の効果

1. 事業内容の充実

「みんなの理科フェスティバル」会場の拡大により、これまでより多くの、そして多様な出展を受け入れることができました。出展総数の 74 件は、昨年の 51 件を大きく上回り、特に小中学生の出展数（10 件 → 33 件）で顕著な増加が見られました。さらに、会場が広くなったことにより、従来出展スペースの確保が難しかったワークショップ等の出展数も増加させることができました（8 件 → 14 件）（図 12～14）。これにより、「みんなの発表会」では多様な作品や出展者が一堂に会し、来場者を含め、濃度の高い研究交流会の機会を生み出すことができました。

2. 小中学生等の理科教育の支援と学社連携の仲介

小中学生の出展枠をより多く確保できたのは前項のとおりですが、これには会場の拡大だけではなく、市教委担当課による市立学校への働きかけや調整によるところも大きいものでした。同課とは本事業立ち上げから徐々に連携を強めてきていて、今回は出展会場での審査結果発表（「よこすか子ども科学賞」および「よこすか子ども発明展」）と一部の表彰を実施しました（図 15～18）。これにより、小中学生の理科教育に対して博学連携を意識した支援ができました。

高校生については、本事業立ち上げから徐々に連携を強めている県立横須賀高校を通じて、市内の他の県立高校の参加が実現しました。「みんなの発表会」では、従来申請者ら博物館学芸員が行ってきた司会を高校生に任せる（図 19）ことで、小学生から大人が集まる会場にあって中間的とも言える世代（高校生）が、地域の研究交流を促す役割を果たしてもらうことができました。

会場では、出展を通じて地域の研究活動団体や研究機関などと交流を図ることができましたが、ちょうど時期を重ねて、当博物館が立地する三浦半島地域の各地で活動する市民団体が加盟して

いる「三浦半島まると博物館連絡会」のパネル展示を、本館に誘致することができました(図 20)。こうした博社連携の取り組みの先に、博物館が学社連携を仲介する役割を見出す機会になりました。

3. 広報及び関連事業を通じた社会的認知の向上

広報用印刷物の制作・配布や関連事業である企画展示の開催による効果は次のとおりです。

来 場 者 363 人（「みんなの理科フェスティバル」会場での 2 日間合計）

入 館 者 773 人（博物館本館での 2 日間合計）

※10,526 人（企画展示期間中〔2019 年 12 月 7 日～2020 年 2 月 16 日〕の合計）

今回助成を受けて実施したことは、「みんなの理科フェスティバル」来場者の増加と満足度の向上のためだけでなく、その先にある「子どもと大人が理科でつながる」活動への社会的認知を高めたと考えます。

以上



図 1 理科フェスティバル会場の様子（第一市民ギャラリー）



図 2 第一・二市民ギャラリーの平面図（横須賀市文化会館 提供）



図3 準備中の第一市民ギャラリー。主に理科学研究や理科工作の展示会場ならびに全体発表ステージとして使用した



図4 準備中の第二市民ギャラリー。主に理科活動の展示会場やワークショップの出展場所として使用した

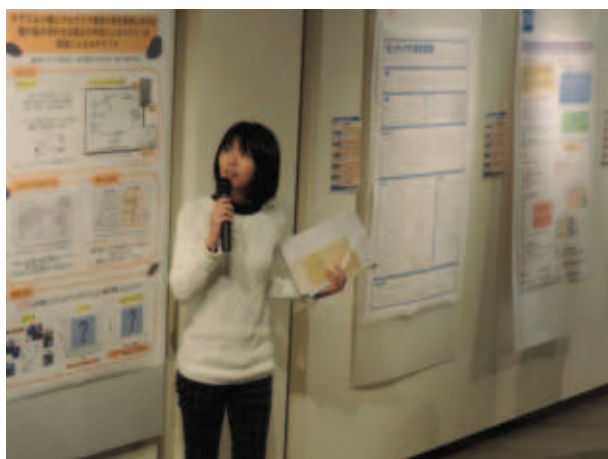


図5 発表ポスターの掲示板。ポスターは壁面に沿って懸垂した掲示板に貼付した



図6 プロジェクターを用いた全体発表の様子。ポスターを大写しにできるので、より多くの来場者がポスター内容を確認しながら聴ける



図7 2台のスピーカーマイクを組み合わせた音響システム

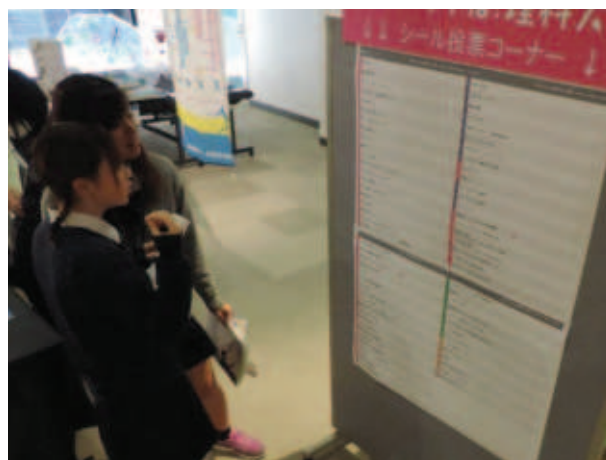


図8 会場内に備え付けた投票ボード。来場者には受付でプログラムとともにシールを渡し、投票してもらった



図 9 企画展示「神奈川県植物誌 2018 と三浦半島の植物たち」。写真右手ケース内の植物模型などを借り受けた



図 10 理科フェスティバル広報チラシの表裏。おもて面（左）はポスターとして A3・A2 に拡大した



図 11 企画展示広報チラシの表裏。おもて面（左）はポスターとして A3 に拡大した



図 12 ワークショップの一つ、ロビースペースでの実験演示。高校の科学部員も手伝った



図 13 ワークショップの一つ、第二市民ギャラリーでの節足動物写真パネルおよび生態展示



図 14 ワークショップの一つ、第二市民ギャラリーでの高校美術作品（生物の点描画からデザインを起こした作品群）



図 15 教育委員会教育指導課主催「よこすか子ども発明展」の事業説明。理科フェスティバル内での周知の機会を設けた



図 16 「よこすか子ども発明展」の出展作品。「理科フェスティバル」では入賞作品のみ教育指導課の推薦によって展示された



図 17 「よこすか子ども発明展」表彰式。「みんなの発表会」に先立って実施し、教育指導課の指導主事や理科研究会会長が臨席した



図 18 教育委員会教育指導課主催「よこすか子ども科学賞」優秀賞受賞児童による研究発表。受賞児童の出席調整は教育指導課が行った



図 19 「みんなの発表会」では、高校生に司会をお願いした



図 20 「理科フェスティバル」期間に重ねて、博物館本館に誘致した「三浦半島まると博物館連絡会」のパネル展示の様子